

県1部リーグで3年ぶり優勝



▲埼玉県1部リーグで優勝した選手たち

サッカー部

前期無敗、後期5連勝など 堂々のタイトル奪還

埼玉県1部リーグに3年ぶりに優勝、関東2部リーグ参入戦に進んだ。

前期7試合無敗のまま7月7日から中期リーグに入った。第8節から第11節までチームは4連勝を飾る。8月23日の第12節は引き分けたものの、その後の第13節と第14節に連勝して、中期リーグも負けなしの6勝1分として好調をキープした。

後期リーグは9月8日から始まった。初戦の第15節から第19節まで5連勝して、早くも優勝を決めた。10月14日の第20節・尚美学園大学戦と続く10月20日の最終第21節・埼玉大学戦には惜敗したものの、トータル14勝5分2敗の勝ち点74。堂々たる成績で優勝を奪還した。

猿山誠監督は「今年は4年生の戦い。戦に懸ける想いと優勝したいという強い気持ちを感じた。21試合という長丁場のリーグ戦において守備陣ではリーグ1位の最少失点と安定し、攻撃陣では昨年チームだったソドカ・チャールス（経営3）がチームのエーストライカに成長した。攻守にわたってバランスの良いチームになったと思う」と振り返る。「チームの最大目標で結果を出すために1年間やってきた。160人の部員でチーム一丸とならず昇格を果たしたい」と参加者への決意を語った。【徳法寺佑樹】

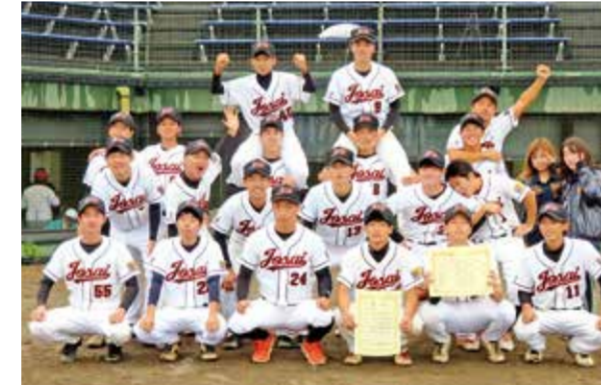
男子

第54回全日本選手権会(日本サッカー)は9月6、8日、富山県で開かれ、24回目は出場となった男子ソフトボール部は優勝してベスト8だった

10月19日と20日に群馬県で開かれた第19回関東選手権大会(日本ソフトボール)は9月6、8日、富山県で開かれ、24回目出場となった男子ソフトボール部は優勝してベスト8だった。10月19日と20日に群馬県で開かれた第19回関東選手権大会(日本ソフトボール)は9月6、8日、富山県で開かれ、24回目出場となった男子ソフトボール部は優勝してベスト8だった。

男女ソフトボール部

8月30日～9月2日、愛知県で行われた第54回全日本選手権会(日本ソフトボール)に、女子ソフトボール部は優勝し、男子ソフトボール部はベスト8に入った。



▲第54回全日本選手権会(日本ソフトボール)優勝した男女ソフトボール部の選手たち

関東選手権3位 島田がU23日本代表に選抜

3が最優秀選手賞を獲得し、新主将の秋原健仁(現代政策)を通じて、チームの改善点、克服すべき点が見つかってきた。チームには選抜9月12日から24日までインドネシアでの強化合宿に参加し、来年開催の男子U23ソフトボールワールドカップに向けた2018年、2019年男子展開戦2年連続3位(東海連合県体連大会)2019年個人法形準備優秀選手賞、展開戦優勝、団体法形競技優勝、女子軟式戦優勝、男子軟式戦優勝。

女子

8月30日～9月2日、愛知県で行われた第54回全日本選手権会(日本ソフトボール)に、女子ソフトボール部は優勝し、男子ソフトボール部はベスト8に入った。

男子

8月30日～9月2日、愛知県で行われた第54回全日本選手権会(日本ソフトボール)に、男子ソフトボール部はベスト8に入った。

「勝つことに拘りたい」 主将の古井萌乃



古井は「ソフトボールをリーダーとしてチームを引っ張りたい。秋のシーズンを迎える。10月中旬に予定されていた関東選手権大会は台風の影響で中止。女子ソフトボール部のグラウンドも水をかぶり、使えない状態になった。そのため、硬式野球やサッカーの場で練習して10月27日からの関東大会選手権大会に臨んだ。優勝を目指していたものの、2回戦で涙を吞んだ。古井は「硬式野球やサッカー部、多くの人に協力してもらった。優勝した。自分たちの力を発揮することができずに終わってしまう、悔しい思いが残ると振り返る。

川越 400メートルで 3位表彰台 水久保が100メートルで自己記録更新



▲国体で力走する川越広弥(月刊陸上競技提供)

国体

第74回国民体育大会の陸上競技は10月4～8日、茨城県の笠松運動公園陸上競技場で開かれた。成年男子100メートルで、水久保が自己記録を更新し、10秒97で優勝した。川越は400メートルで3位となり、表彰台に上った。水久保は49歳で、この大会で自己記録を更新した。水久保は49歳で、この大会で自己記録を更新した。水久保は49歳で、この大会で自己記録を更新した。



400メートルで優勝した水久保は、5月の関東選手権大会で、水久保が自己記録を更新し、10秒97で優勝した。川越は400メートルで3位となり、表彰台に上った。水久保は49歳で、この大会で自己記録を更新した。水久保は49歳で、この大会で自己記録を更新した。

陸上競技部

9月中旬から10月下旬にかけて、日本インカレを皮切りに関東新人、国体、U20日本選手権と立て続けに大会が開催された。国体で表彰台に上がった川越、また出身県の種目優勝にも貢献した水久保など、本学の選手たちは力を奮った。【君島麻未】

順位決定戦に連勝し秋季5位 硬式野球部

秋季リーグは春季と同様、2部10チーム中5位だった。5チームずつのグループリーグで4勝4敗の3位。別グループの3位だった定利大学の順位決定戦には勝利して5位となった。



▲秋季リーグから

市内に被害をもたらした台風19号では、10月14日と15日に延べ約40人の部員が、1階部分が床上浸水した扇形球場が全面人工芝へ。

15日に延べ約40人の部員が、1階部分が床上浸水した扇形球場が全面人工芝へ。15日に延べ約40人の部員が、1階部分が床上浸水した扇形球場が全面人工芝へ。

来季に向け球場が全面人工芝へ

15日に延べ約40人の部員が、1階部分が床上浸水した扇形球場が全面人工芝へ。15日に延べ約40人の部員が、1階部分が床上浸水した扇形球場が全面人工芝へ。

コンタクトレンズと目の健康

コンタクトレンズは清潔に使用して、装着したまま寝てはいけない——皆さんは守れていますでしょうか。今回はコンタクトレンズと目の健康についてお話しします。

コンタクトレンズは清潔に使うことが大前提です。レンズが汚れていると微生物による感染やアレルギーが生じる可能性があります。現在主流の薬品を用いたこすり洗いや漬け置きによるレンズの洗浄は、滅菌方法です。滅菌とは殺菌のように菌を殺すのではなく、菌を減らすのみです。そのため、どれだけきれいに洗浄しても、レンズの汚れの全てを取り除くことはできません。このことから、コンタクトレンズの使用期限は必ず守る必要があるのです。また、保存ケースを清潔に保つことも重要となります。

軽い水洗いで済ませるのではなく、ケース自体もしっかりとこすり洗いをし、乾燥させ、一定期間で新しいものと取り換えます。人が生きていくために必要な酸素は、呼吸により体内に取り入れ、血液により全身に運ばれます。しかし、目の角膜は視界に血管が入らないよう、血管が通っていません。そのため、角膜自体が涙や外界から酸素を取り入れる必要があります。コンタクトレンズは、この酸素の取り込み過程を物理的に邪魔してしまうため、酸素透過性の高いものが良いといわれます。また、裸眼の場合でも目の閉じている睡眠中は、日中に目を開けている時間よりも酸素の取り込み量が少なくなります。つまり、コンタクトレンズを装着したまま寝てしまうと、角膜はさらに酸素を取り込みにくくなり、細胞死を引き起こす可能性があります。

不適切な使用が失明につながる可能性もあるコンタクトレンズ。冬はこたつで寝てしまっても構わないので、帰宅後すぐに外すなど注意して適切に使用しましょう。

目に入れるものなので、初めて使用したときは慎重に丁寧に扱っていても、月日が経ち使い慣れていくうちに、いろいろ疎かになっていってしまうかもしれません。また、カラーレンズは通常のレンズよりも酸素透過性が低いものが多いため、長時間の使用など使用法に特に注意してください。

【本多里菜】

日本インカレ 水久保は200メートルで7位 400メートルリレー決勝進出も好記録

第88回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)は9月12～15日、岐阜県長良川競技場が開かれた。5月の関東選手権大会で、水久保は200メートルで21秒05の7位入賞、400メートルリレーは水久保、鈴木大太(経営3)、菅原巧(経営1)、齋藤斗也(経営3)という3年生以下のオースター、予選で39秒54の好記録だったが、0秒22差で決勝進出を逃した。しかし、若いチームだけに来シーズンを期待を抱かせる結果となった。

「子供たちに夢を追う姿を見せたい」 「東京五輪に挑戦したい」

埼玉県の教員試験に合格、中学校の社会科教師をしながら競技を続けるという川越は、長年追い続けた約50回大会で全国大会でのメダル獲得という目標を遂げたい。今年、冬の練習を積んでいく、教員としての責任として、子供たちに夢を追う姿を見せたいと抱負。新主将の水久保は「準決勝で自己ベストを更新できたが、まだまだ力不足。課題の中盤以降でのヒッチやスライドの両立ができれば10秒1台も見えてくる。冬季トレーニングをし、積み重ね、東京五輪挑戦したい」と夢を見据えている。

関東新人大会 U20 鈴木が200メートル優勝 伊奈が400メートル2位

第30回関東学生新人陸上競技選手権大会は9月20～22日、神奈川県相模原市スタジアムで開かれた。200メートルで鈴木が21秒04で見事に優勝した。また第35回U20日本陸上競技選手権大会は10月18～20日、広島県の広島広域公園陸上競技場が開かれ、400メートルで伊奈、鈴木(経営3)が50秒64の自己新記録で2位となった。

全国大会で 高山が3位に

Let's Sports

陸上というスポーツは、多くの人にとって馴染みがないかもしれない。陸上とは選手と器械体操を組み合わせた武道。現在部員は男子14人、女子7人の計21人。練習は厳しいが、学部や学年を問わず和気あいあいとした雰囲気が感じられる。初心者も歓迎、県大会や全国大会に向けて精進中だ。

10月27日、日本武道館で開催された第53回全国学生陸上競技選手権大会(日本インカレ)で、小川麻希(薬学3)が3位の好成績を収めた。小川麻希(薬学3)は、春の演武や高麗祭で陸上競技部のアクロバティックな動きに注目して、最近の主な大会成績は以下の通り。

- 東京都北区区体連大会
- 2018年U20男子個人法形3位、女子軟式戦優勝
- 日米陸上交流大会
- 2018年U20男子個人法形優勝
- 全国学生陸上大会
- 2019年、2018年男子展開戦2年連続3位
- 東海連合県体連大会
- 2019年個人法形準備優秀選手賞
- 展開戦優勝、団体法形競技優勝、女子軟式戦優勝、男子軟式戦優勝

新田陽子(薬学3)の通称「おんちゃん」がインカレで優勝し、表彰状を授けられた。表彰状を授けられた。表彰状を授けられた。

ケアドリンク「RUNSHOT」発売

男子駅伝部が開発協力

株式会社薬学部医療栄養学管理栄養士養成課程の共同研究で、コラーゲンペプチドが膝の痛みの軽減や筋肉の分解抑制に効果があることが分かってきた。今回、故障に悩む男子駅伝部員の協力で臨床試験を重ねて新商品開発にこだわった「コラーゲンペプチド」が、「RUNSHOT」に配合された。

これまで新田陽子(薬学3)がインカレで優勝し、表彰状を授けられた。表彰状を授けられた。表彰状を授けられた。



PS Pharmacy x Sport

コンタクトレンズは清潔に使用して、装着したまま寝てはいけない——皆さんは守れていますでしょうか。今回はコンタクトレンズと目の健康についてお話しします。